

研究主題

地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子
～地域との連携による「おおたの未来づくり」を目指して～

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和6年11月27日(水)5校時

学校名 大田区立久原小学校

対象 5年2組 30名

1 単元名

「未来をつくるものづくり」

内容のまとまり「ものづくり」(全70時間)

【Aものづくり】

2 単元の目標

自治会や青少年対策委員会など地域の方々と連携し、各家庭から提供していただいた柑橘類などの果実を使った製品を開発する活動を通して、地域の社会や人々の「Well-being」につながる取組に参画するための基礎となる知識及び技能を身に付け、試行錯誤して、地域の社会や人々の「Well-being」につながるものや取組を創り出し、発信するために必要な思考力、判断力、表現力等を養うとともに、地域社会の一員として、様々な人の関わりを大切にするとともに、自他のよさやもち味を生かして主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする資質・能力を育むようにする。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価基準	・地域の社会や人々のWell-beingに向かって、どのようなものを創り出すかという構想が「ものづくり」のコンセプトであることを理解し、コンセプト設定に必要な知識・技能を身に付けている。 ・コンセプトに基づいて、相手に受け入れられるものを設計するために必要な知識・技能を身に付けている。 ・デザインしたものを具現化し、発信するために必要な知識・技能を身に付けている。	・「コンセプト」の意味理解に基づいて必要な情報や情報収集の方法を考え、情報を整理・分析して必要なキーワードを導き出し、試行錯誤して「コンセプト」を設定している。 ・コンセプトに合った特徴や機能、効果等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点を踏まえて、設計している。 ・様々な人からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、ものづくりや、資料作成、発表準備等に取り組み、相手意識をもって発信している。	・様々な人との対話を大切に、進んで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。 ・すすんで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして、よりよい設計にするために、持ち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。 ・様々な人からの評価等を受け止めて、取組を振り返り、価値や改善点を見いだそうとしている。
学習活動における評価規準	(1) 地域で暮らす人々の願いや思いを具現化するため、様々な人々が尽力し、より良い製品を作り出していることが成り立って人々のニーズに合わせて日々改良を続けていることを理解している。(知識) (2) 目的や対象に応じて、調査活動や発信方法の選択を適切に行っている。(技能) (3) 地域には様々なニーズをもった人が暮らしており、その人たちの暮らしがよりよくなるために、様々な工夫	(1) ものづくりに向けた取組を決めるに当たり、何をするのか、何のためにするのかとコンセプトを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。(課題の設定) (2) コンセプトや対象者のニーズをより理解するために必要な情報を、調査する対象を選びながら収集している。(情報の収集) (3) コンセプトに合わせた製品づくりに向けて、得た情報や解決の方法を、実現可能な提案か、	(1) 自己と異なる意見や考えを理解しようとしたり、友達のよさを認めたりしながら、よりよい課題解決につなげようとしている。(自己理解・他者理解) (2) 自分と異なる意見や考えを生かしながら、個人でできることと仲間と協力してできることを意識して、協働的に探究活動に取り組もうとしている。(主体性・協働性) (3) よりよいものづくりに向けた取組をする人々等のつなが

	をしながらものづくりが行われていることに気付いている。(知識)	ニーズに合っているかという視点で整理・分析して考えている。(整理・分析) (4) 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を伝えている。 (まとめ・表現)	りに気付き、地域をよりよくするために、共にできることを考えて行動しようとしている。(将来展望・社会参画)
--	---------------------------------	--	--

4 単元設定の理由

本単元は、「ものづくり」を材とした単元であり、「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」である。地域から依頼された課題について、地域の特徴や地域社会とのつながりを多面的・総合的に考え解決していくことで、創造的な資質・能力を育むことをねらいとしている。

大田区はものづくりの町として有名であり、社会科の教科書に掲載されるほどである。本校の学区域にも多くの町工場が点在している。しかし、児童の多くが日常的に暮らし、活動しているエリアのほとんどは住宅地であり、住宅街が広がる地域のため、特徴的な産業や有名な観光地があるわけではない。

そこで、この「住宅街が広がる地域」という特徴を逆手に取り、各家庭で栽培している柑橘類やザクロなどの果実を譲り受け、製品化して地域に還元することで、地域のもつ特色と良さを再発見し、児童がものづくりを通して、住んでいる地域に誇りをもつことができるように本単元を設定した。地域に根差したオリジナル製品を創造していくことで、ものづくりの楽しさや製品が作られるまでの人々の工夫や努力を感じながら、地域への愛着をもち、地域に貢献していこうとする心情を育むことができる考えた。

令和7年度から全面実施となる新教科「おおたの未来づくり科」においては、第5学年及び第6学年を通して「ものづくり」と「地域の創生」の両方の学習内容に触れていくよう学習を計画するよう設定されている。本単元では、地域の材を活用した「ものづくり」を行うことで、同時に地域のオリジナル商品を作り出し提案する「地域の創生」の視点をもった学習を展開していくことを考え、学習を計画した。第5学年で考えた製品を、第6学年では地域やPTA主催のイベントなどで提供していくなど、次学年の学習内容にもつなげていきたい。

5 児童の実態

(1) 総合的な学習の時間について

本学年は第4学年総合的な学習の時間で、「久が原防災プロジェクト」を通して学校・家・地域の防災について学習した。学習を通して、自分の学校や家、地域の施設・公園の安全や危険な箇所を見付け、どのように避難行動を取ればよいか考えたり、学校の防災倉庫の中にあるもの知り、分かったことをまとめたりした。また、立体的な防災マップを作ったり、液状化現象など震災によっておこる二次災害のしくみについて実験器具を作ったりして、学んだことをフェスタで発表し、地域の一員としてどのように過ごしたら良いか考えてきた。

第5学年では、これまで「ものづくり」を題材として、ものづくりの素晴らしさについて考えたり、農業体験を行うことでものづくりの楽しさや大変さについて体験したりしてきた。自分たちもものづくりをしてみたいという意識が高まっているところで、地域からの依頼を受け、商品開発を考えていくことで、ものづくりの基本である相手のニーズに合わせて製品を作り、課題を解決するという流れを学び、創造性や他者への意識を育てていく。

(2) 地域について

今年度は、本単元の学習を通して、地域の新たな良さを発見し、地域への愛着をさらに深めるとともに、地域の良さやそこに住む人々の思いや願いを広め、社会に参画する力を高めていくことをねら

いとして考えた。本校のある久が原地域は、縄文・弥生時代の遺跡に住居が立ち並ぶ住宅街である。本校は出張所と併設しており、5つの自治会による「ふれあい運動会」が今年で35回目を迎えるなど地域のつながりが深い。また、地域の方々は学校の教育活動に非常に協力的で、ボランティアやゲストティーチャーなどを快く引き受け、こどものために力をお貸しいただける方が多い。児童は第1学年から地域とつながりをもって学習に取り組んできている。このつながりの深さや地域の人の温かさに気が付き、自分たちも地域を担う一員であることに自覚をもって、自分たちの力を地域に還元できるようにしていきたい。

(3) アンケートについて

第5学年149人を対象にアンケート調査を行った。本学年の児童は、ものを作ることが好きで、自分のアイデアを形にすることに意欲的である。実態調査アンケートでは、90%以上の児童が「ものづくりが好き」と答えている。しかし、他者のためにものづくりをするという経験があまりないため、ものづくりをするだけに留まらず、地域の方々のために課題解決をし、よりよいものになるよう行動できる児童の育成をねらいとして、身の回りの人のためにものづくりを行うことでこれからも地域のために主体的に課題解決ができる力を身に付けさせたい。

本単元では、久が原の地域の方から依頼を受けて、学年で考えたオリジナルの製品を企画することで自分の好きなものを作るのではなく、相手のニーズに合わせて製品を作ることの大切さについて児童が見付けられるようにしたい。そのために、誰に向けてどんな思いで製品を作るのかよく捉えた上で企画提案することが必要であることに気付かせるようにする。

さらに、教科横断的な学習を計画的に取り入れていくことで、他教科での学習や実社会における課題発見・解決に生かし、主体的によりよい未来を創る力につなげていきたい。

6 主題に迫るための手だて

高学年分科会で目指す姿

地域の問題から課題を設定し、地域の一員として地域と協働して、よりよい地域・社会・未来を想像する子

(1) 地域連携をして課題を解決するようにする

- ・地域の自治会やスクールサポートと連携し、これまで学校とかかわりの無かった地域の方や自治会の方など様々な方に協力をいただき、地域の困りごとや地域で育つ柑橘類についての情報収集ができるようにする。また、地域には、地域の未来を考え、共に行動してくれている人がいることに気付くことができるようにする。
- ・児童一人一人が地域の課題やその解決方法について考え、授業で作った製品やそれぞれが考えた提案を地域の人たちに発信していける機会を設けるようにする。

(2) 身近な生活・地域・社会から、問題を見付け、課題設定をする

- ・地域で実際に撮った写真から課題を考えた上で、地域から依頼を受けることで、地域の課題を児童が感じ取り、その解決に向けて取り組もうという意識がもてるようにする。
- ・いつでも「コンセプト」に戻ることができるように、これまでの学習を適宜掲示して、地域・社会の課題を自ら解決していく態度を身に付けることができるようにする。

(3) 課題解決に向けて必要な情報収集、整理分析し、解決へ向けた行動を取ることができるようにする

- ・ものづくりが行われていく過程やニーズに合わせた工夫を調べていくことができるように、学校図書館や地域の図書館からの本を借りてフロアに置き、参照できるようにする。
- ・個々の考えを出さるために、グループごとに考えを整理させ、付箋、オクリンクやムーブノートを活用することで、自分たちが集めた情報を整理・分析できるようにする。

- ・これまで扱ってきた思考ツールや活用できるアプリケーションなどを提案し、自分たちの目的に合わせて、集めた情報を整理できるようにする。

(4) 自己の生き方を考えることができるような機会や場を設定する

- ・ものづくりを通して、自分たちの地域の良さや未来の姿について考えさせることで、自分たちの行動によって地域の発展に貢献できることを感じさせ、主体的に行動したり、周囲と協力して取り組んだり、今後の生活の中でも生かせるようにする。
- ・授業後に、振り返りの時間を設定することで、毎時間の学習を自己の生き方につなげられるようにする。
- ・小単元の終わりに、学習してきたことを元に自分たちに出来ることを考えまとめることで、これからの生き方を考えることができるようにする。

7 おおた未来づくり科との関連 高学年として目指す姿

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
能力の育成	① イノベーションを起こすものや取組を創出するための知識 ② 情報収集及び相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能	① 社会や生活を豊かにするための課題を発見する力 ② アイデアやデザインを考える力 ③ 思考錯誤してものや取組を創出する力	① 自分や他者のよさを生かして主体的に取り組もうとする態度 ② よりよい未来社会を創造しようとする態度
目指す姿	・ 探究学習や発信する過程において、必要な知識及び技能を身に付け、活用している。	・ 情報を集め、整理・分析して、まとめたことを基に試行錯誤して、地域の社会や生活をよりよくする取り組みを発信したり、実行したりすることができる。	・ 実社会で活躍する様々な人とのかかわりを大切にするとともに、協働学習などにおいて自分や他者のよさを生かしながら主体的に取り組むことができる。

8 教科等横断的な学習

教科	単元名【時数】	「ものづくり」との関連	「おおたの未来づくり」との関連
国語	目的に応じて引用するとき【2】	さまざまな情報をつなげて考え、よりよい生活のための考えを伝えられるようにする。	調べたことを目的や意図に応じて分類して収集して、伝えたいことを明確にすることができるようにする。
国語	よりよい学校生活のために【3】	身近なことの良さを理解して、よりよく生活できるよう取り組む態度を高める。	考えを整理する方法を身に付けることで、集めた情報を整理して活用することができるようにする。
国語	固有種が教えてくれること【2】	表やグラフを活用して、物事の比較や分類の仕方を理解し、互いに意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができるようにする。	情報収集及び、相手にわかりやすく伝えるための知識や技能を高める。
国語	「子ども未来科」で何を学ぶ【2】	資料などを活用して、自分の考えを伝えられるように表現や言い方を工夫できるようにする。	イノベーションを起こすものや取り組みを創出するための知識をつける。

社会	米作りのさ かなな地域 【2】	ゲストティーチャーを呼び、実際に米作りを行うこ とで作り手の思いや工夫を知り、ものを作ることの 大変さを体感できるようにする。	お米づくりを通して、試行錯誤してものを作っ たり取り組みを考えたりする力を育てる。
社会	これからの工 業生産とわた したち【2】	大田区の工場を調べ、世界に誇る技術があること を知り、ものづくりへの意欲を高める。	イノベーションを起こすものや取り組みを創 出するために必要なことを考え、コンセプトに あったものづくりを計画する。
家庭	食べて元気 に【2】	食品の栄養的な特徴や効能が分かり、食事の問 題や課題について解決方法を考え、実践すること を通して、課題を解決する力を身に付ける。	製品を振舞う対象や食品の特徴を考えて、オ リジナルの商品を計画する。
算数	割合をグラ フに表して 調べよう【3】	目的に応じてデータを集めて分類整理し、デー タの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適 切なグラフや値を選択して判断し、その結論につ いて多面的にとらえて考察する。	コンセプトに合わせて対象を限定したりデー タを集めたりして、分類整理し、提案の根拠と して活用する。
図工	ズラシックパ ーク【2】	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、 想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表 したいことを見付けることや、形や色、材料の特 徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えなが ら、どのように主題を表すかについて考えること。	形や色などの造形的な特徴を基に、コンセプ トにあった自分のイメージをもつことができる ようにする。

9 指導と評価の計画(全70時間扱い)おおた未来づくり科との関連(網掛け部分)

小単元	時数	○主な児童の活動 ・予想される児童の姿	◇手だて □支援 ☆評価 ■教科横断的な学習	おおたの未来 づくり科との関 連		
				知	思	主
【課題 設定】	1	【1学期】 ○ものづくりについて知る。 ・ノートってこんな風に作られているんだ。 ・ノートっていろいろな工夫がされていたんだね。 ・違うものはどうやって作られているんだろう。	「モノづくりのその先へ」 を視聴。ものづくりにか ける企業の職人の思い について触れる。	①		
【情報 収集】	2～5	○興味のあるものづくりについて調べる。 ・花火の作り方について調べよう。 ・鉛筆の作り方を調べたいな。 ・からくり人形について調べたい。 ・米について知りたいな。	◇(2) 掲示物 インターネットや本を用 いて、ものづくりを調べ、 メモ用紙に伝えたい内 容をメモする。 ◇(3) 本	①	②	
【整理 分析】	6～9	○調べたものを整理する。 ・自動車を作るには、3つの工夫があったからど の順番で書くか整理して分かりやすく伝えられ るようにしたい。	■社会 「これからの工業生産と わたしたち」 調べた内容をまとめ、新 聞に載せる記事を考え る。	①		
【まと め・ 表現】	10～ 15	○分かったことや調べたことを新聞でまとめる。 ・作り方やその人の想いを新聞にまとめたいな。 ・みんなにものづくりの工夫を伝えたいから、新聞 にまとめよう。	■国語 「目的に応じて引用する とき」			①

【課題 設定】	16	【2学期】 地域住民の方々から依頼を受けて、果実をどのように使うか考えよう。	◇(2) 地域からの依頼 ◇(2) 資料提示	③	③
		☆地域から「使いきれないで余ってしまう柑橘類を学習の中で使って欲しい。」という依頼を受ける。 ○果実が何のために育てられているのか考え、柑橘類を使った食べ物を考える。 ・食べるために使われている。 ・観賞用に育てられている。 ・搾って飲むために育てている。			
		・ジュース ・ジャム ・あめ ・スムージー ・アイス ・ゼリー			
		17 ○みんなでコンセプトを考え、共有する。 ・地域からいただいたものを使って作ったものを地域の方々に振る舞い、地域の人々が喜ぶオリジナル製品を作る。			
		18 ○食べ物や飲み物を作る上での良さや課題について整理分析する。 ・ジュースは、作るのが簡単な。 ・絞るのが難しいかな。 ・そのままだと酸っぱいかもしれない。 ・アイスはすぐに溶けてしまう。 ・ジャムは、作り方が難しそうだな。			
【情報 収集】	19	○ジュースを作ることに課題を絞り、良さ・課題をまとめよう。 <良いところ> ・簡単に作ることができる。 ・飲みやすい。 <課題> ・作り方を知らない。 ・絞るための道具が必要。	◇(2) 活動例を参照 ◇(3) 思考ツール	②	②
		20 ○新製品開発プロセスについて話を聞く。(ゲストティーチャー) ・製品には、形・名前・役割・価値が必要だよ。 ・オリジナルを作るには、たくさんのアイデアを出す必要があるみたい。 ・誰に向けて作るのかが大切みたいだね。 ・どうしたら、地域の人々が喜んでくれるものが作れるかな。 ・どんな時に飲んでみたいかな。			
		21 ○柑橘類にはどんな特徴があるのか調べる。 ・ビタミンCが入っている ・酸っぱい ・香りが良い ・クエン酸 ・疲れがとれる			
		22 ○柑橘類の歴史や産地について調べる。			
		23 ○柑橘類の栄養成分について調べる。			
【まとめ 発表】	24	○地域からいただいたものを使って作ったものを地域の方々に振る舞い、地域の人々が喜ぶオリジナル製品を作る。	◇(1) ゲストティーチャー(地域の方)	①	①
		○新製品開発プロセスについて話を聞く。(ゲストティーチャー)			
		○柑橘類にはどんな特徴があるのか調べる。			
		○柑橘類の歴史や産地について調べる。			
		○柑橘類の栄養成分について調べる。			
【振り返り 評価】	25	○地域からいただいたものを使って作ったものを地域の方々に振る舞い、地域の人々が喜ぶオリジナル製品を作る。	◇(1) ゲストティーチャー(地域の方)	①	①
		○新製品開発プロセスについて話を聞く。(ゲストティーチャー)			
		○柑橘類にはどんな特徴があるのか調べる。			
		○柑橘類の歴史や産地について調べる。			
		○柑橘類の栄養成分について調べる。			

【整理 分析】	22 23～ 27 28	○地域の人が喜んでくれるジュースを考え、企画書に整理する。 ・子供も大人も飲めるように少し甘くしたいな。 ・酸っぱさを残した方がレモネードっぽいかもしれない。 ・飲みやすくなるように、少し薄い方が美味しいかもしれないな。 ・甘くするために、砂糖じゃなくてハチミツを入れたら美味しいかもしれないな。				② ③	
	29 本時	○班ごとに地域に喜んでもらえるオリジナルドリンクについて考え、クラス全体に提案する。 ・私たちの班は、レモンの酸っぱさを残すために、レモンを多めに入れたい。 ・地域の人にもらった果実をすべて使いたいから、ミックスジュースを作りたい。 ・地域には、小さい子からお年寄りまでいるから健康的でおいしい飲み物を作りたいな。	◇(2) 学習内容の掲示			② ③	① ②
【まとめ・ 表現】	30	○クラス全体で話し合い、地域に喜んでもらえる飲み物の視点を整理する。 →なぜそのアイデアを代表案として選ぶのか、理由も考える。	■国語「固有種が教えてくれること」 ◇(4) 単元のまとめ			③	②
	31 32～ 37	○試作の計画を立てて、試作する。 作ったものについて周りから意見をもらい、改善しよう。		②			
【課題 設定】	38	○試作したものを地域の方々に飲んでもらい、フィードバックをもらい、改善をはかる。	◇(2) フィードバックから課題設定	②			
【情報 収集】	39	○課題をどのように改善すればよいかを考える。 ・もう少し甘い方が飲みやすいと言ってたな。 ・夏なら冷たいほうがいいけれど、冬になるから冷たすぎると飲みにくいかもしれないと言われたな。 ・時間がかからない方が嬉しいと言ってたから作るのに時間のかからないように工夫はできないかな。 【3学期】 学年のオリジナルドリンクを考えよう。	◇(1) 地域の方	③		③	② ① ②
【整理 分析】	40 41～ 46	○クラスオリジナルドリンクを企画・提案・準備をする。 ・5年2組は、オレンジとレモンのフルーツジュースにしたいな。 ・どこを売りに提案しようかな。	■国語「子ども未来科」で何をする」 ■算数「割合をグラフに表して調べよう」			②	① ② ③

【まとめ・表現】	47 48～ 50	○学年のオリジナルドリンクを飲んで感想をもらい、良さをまとめる。 ・おいしいと言ってもらえてよかったな。 ・久原小オリジナルにしておくのはもったいないくらいおいしいって言っていたよ。 ・甘さがちょうどいいって言っていた。 ・栄養がたくさん入っていることがわかったからもっと飲みたいと思ったと言っていたよ。 ・地域の人にもっと飲んでもらうことはできないかな。 ・地域の人からいただいた果実だから、久が原のみんなに飲んでもらいたいな。	◇(4)単元のまとめ	③	④	
----------	-----------------	---	------------	---	---	--

10 本時の指導(29／70時間)

(1) 本時の目標

各自オリジナルドリンクの企画書を持ち寄り、グループで話し合う活動を通して、地域の人に向けてよりよいオリジナルドリンクを考えることができるようにする。(整理分析)

(2) 本時の指導計画

時間	○学習内容 ・児童の反応等	◇指導上の留意点、配慮事項 ☆評価
導入	○前回までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・前は作ってみたいオリジナルドリンクを考えたよ。 ・一人一人がどんな工夫をしたいか企画書を書いたよ。 ・みんなはどんな工夫を考えたのかな。	◇前回までの学習活動を振り返りながら、本時の見通しをもてるようにする。
展開	グループで話し合っ、オリジナルドリンクを提案しよう ○グループごとにどのようなドリンクを作りたいか企画書をもとに話し合う。 ・レモンは健康にいいから果実を入れたいな。 ・少し甘くするとみんなが飲んで地域の人にも喜んでくれると思う。 ・はちみつレモネードにしたいけど、材料費がかかりすぎてしまうな。 ・ザクロは苦そうだけど、どうにかおいしくできないかな。 ・どうしたら地域の人喜んでくれるかな。 ・疲れている人のために、疲れを吹っ飛ばすためにレモネードを作りたいな。 ○みんなの意見を全体で共有し、考えを整理していく。 ・2班のレモンをたくさん入れるところが健康的でいいと思う。 ・4班のザクロと夏みかんとレモンを3種類入れてつくるミックスジュースもおいし	◇自分の企画書をもとに、話し合うことで、入れたものを整理することができるようにする。 ◇グループの話し合いで思考が広がる場合、付箋やホワイトボードを活用して考えが書き足せるようにする。 ☆地域の課題を解決するために、ニーズに合うように5つの視点を基に整理をしている。 思・判・表(行動・発言) ◇ホワイトボードを活用して児童の考えを整理していく。 ☆クラスのオリジナルドリンクがよりよくなるように、視点をもとに評価することができるようにする。 主体的に学習に取り組む態度 (行動・発言・ワークシート等への書き込み)

	そう。	
まとめ	○振り返りをする。 ・今日は、班でオリジナルドリンクを考えてみたから次は、みんなの結果をもとに実際に作ることでできるオリジナルを1つに絞りたい。 ○次時の見通しをもつ。 ・次は、視点の中で高かった5年2組オリジナルのドリンクを決めたい。	◇本時を振り返り、次の活動を具体的に考えることができるようにする。（手だて4）

12 板書計画

グループで話し合って、オリジナルドリンクを提案しよう。			
話し合いをするときに考えるポイント 1おいしさ 2健康 3作りやすさ 4見栄え 5ネーミング	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
	ホワイトボード	ホワイトボード	次の授業でやりたいこと ・視点ごとにオリジナルドリンクに入れるものを決めたい。 ・作れるかどうか調べて
今日の学習の流れ ①今までの学習の振り返り ②グループで話し合おう ③全体にオリジナルドリンクを提案しよう ④今日の学習の振り返り	9		

13 環境構成

- ・学習過程が分かる写真の掲示
- ・久原図書館から柑橘類に関する資料を借り、いつでも活用できるようにする。
- ・思考ツールの掲示